

## 「人間力」を武器に

中学時代は部活と遊びに勤しみ、4年生になって急に何かしなくてはと思い、手始めに修学旅行のプレゼンに手を出した。行き先を決めるプレゼンでは決勝で負け、その後の委員長のプレゼンでも惨敗。学年全員の前で大恥をかいた。計画性のなさも痛いほど味わった。その後縁あって委員に加わり新しい試みを任せられるも、上手いかず己の非力さを嘆いた。他にも学園祭、AYF など色々手を出し奮闘したものの、どれも中途半端で周囲の人に迷惑をかけ

た。しかし今は、この一連の挑戦の中で重圧に耐えながら思考し続けた経験が受験勉強にも大いに活きたことを確信している。学園祭や生徒会をはじめとする様々なプロジェクトを運営する立場にいた人もきっと同じ思いを持っていることだろう。

奈良女子大附属は、受験勉強ひいては社会にも通用する深い思考力、忍耐力、コミュニケーション能力(以下人間力と呼ぶ)を培う機会に溢れている。これから責任ある立場を目指そうとしている人は、是非とも臆せず、覚悟をもって挑

んでほしい。大切なのは肩書を得ることではない。そのために、そしてその後自分で何を考え行動したかだ。また受験勉強で大切なのは、自己内省の繰り返しだ。そういう意味で両者は似ていると思う。

しかしながら、そうした人間力をいくら向上させようが、結局は勉強そのものを疎かにして勝ち抜けるほど大学受験は甘くない。だから受験期はとにかくがむしゃらに勉強してほしい。受験勉強はつらく苦しく、頂上の見えない山登りのようだ。おまけに足場も悪く、結構登ったと思えば滑り落ちていること

も。それでも本校で培った人間力を信じ高い目標を持ち続けてほしい。学校や塾の友達と刺激しあうのも良い。僕自身、6年生の秋まで部活をしていたし、模試の判定は悪かったがギリギリまで京都大学を目指していた。この学校で背伸びして様々な経験を積んできた皆さんなら、すでにこの山を登りきる力を持っているはずだ。

最後に、日々自分を支えてくれる家族や友達、先生への感謝を忘れずに受験生活を謳歌してほしい。